

## 卓 話

### ●国際ロータリー第 2680 地区

バストガバナー 戦略計画委員長 高瀬英夫様

「漢字で感じるロータリーの感動、魅力」



本日は卓話の機会をお与えいただき、ありがとうございます。  
す。

まず、北村 博会員、ご入会おめでとうございます。心より  
歓迎申し上げます。

ロータリーの扉を開き、その向こうにある先人達が積み上げ  
られた叡智の結晶、無尽蔵の宝の山を掘り尽してください。

本日は、私のロータリーライフでの実感から独断と偏見で四文字熟語に託して、ロータリーの魅  
力についてお話させていただきます。

「縁尋機妙（えんじんきみょう）、多逢聖因（たほうしょういん）」

（良い縁が更に良い縁を尋ねて発展していく様は誠に妙なるものがある。いい人と交わっていると  
良い結果に恵まれる）

陽明学者・安岡正篤氏のこの言葉は、第 2800 地区・鈴木一作 PDG「Guy Gundaker から学ぶロ  
ータリー」の、「ロータリーに入会すると本来なら出会うことすらなかったであろう方々と友人に  
なり、彼らのロータリアンとしての職業観や人生観、人柄に触れながら、職員管理、自己管理、円  
満な人間関係の在り方などを学び磨く中、いつしか自分も価値ある立派な生き方（ロータリー精神  
の涵養と実践）に励むようになるのです。ロータリーのおかげで人間的に成長すると同時に、人生  
も豊かになるのです」との内容と深く共鳴し、ロータリーの魅力を語る言葉として常に私の心に留  
めている熟語です。

「積善余慶」（善行を積んだ家には子孫の代にまで及び幸福が必ず訪れる）

これは、ロータリーのモットー、「One profits most who serves best」に繋がっていると思います。

「忘己利他」（自分のことは忘れて人さまの為に尽くすこと、情けは人の為ならず）

これも、ロータリーのもう一つのモットーである「Service Above Self」に繋がると思います。

ロータリーが日本に導入され、拡大していった背景に、この時代（1920～）の先輩ロータリアン  
の感性にこの二つのモットーは共感を持って受け入れられたものと考えられます。

先日、灘中・高での戦略計画委員会において和田委員（灘中・高直前校長）より、同行の開校に  
深く関わった嘉納治五郎氏が定められた校是についてお話を伺いました。

この校是もロータリー精神との共通する分が大変多く感銘を受けましたのでご紹介します。

「精力善用」（自身の持つすべての力を最大限に生かして、社会のために良い方向に用いる）

「自他共栄」（相手に対し敬意、感謝する事で、信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく他

人と共に栄えある世の中にしようとする)

嘉納治五郎氏は柔道の道を極めて強くなり、地位や名誉を得た後も、決して驕ることなく人より研鑽を積み、常に向上心を持ち続け更なる目標を作り、自らが世の中の役に立つ事を常に考えていたそうです。

最後に、第 2750 地区・地区大会の講師、小泉純一郎元首相よりのロータリアンへのメッセージをお伝えいたします。(江戸時代の学者・佐藤一斉の言葉)

少にして学べば 壮にして成すあり

壮にして学べば 老いて衰えず

老いて学べば 死して朽ちず

私も、自分のモットー「一生学習、一生挑戦、一生奉仕、一生謙虚」を常に意識しつつ人生後半を充実させたいと考えています。

引き続きご指導よろしくお願い申し上げます。

